

学校教育目標 個人の尊厳を重んじ、豊かな人格の完成をめざすとともに、素養に富んだ工業技術者として、平和と文化の創造に寄与する人物を育成する。

目指す学校像(ビジョン) 【努力指標に連動】 ・将来の地域産業を支えつつ、新たな価値を創造する人物を育成する学校 ・専門分野の知識・技術に加え、主体的にやりたいことが学べる学校 ・地域社会から信頼され愛され続ける社会に開かれた学校
--

目指す生徒像(グラデュエーション・ポリシー) 【成果指標に連動】 ・社会の変容に応じ、幅広い知識や高度な技術を身に付け地域産業をリードできる生徒 ・各専門分野の視点を踏まえ、多角的に産業の発展・環境について考えることができる生徒 ・自らの力を信じ、ものづくりにおけるチャレンジを繰り返し行うことのできる生徒
--

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価規準						推進担当等					
				努力指標				成果指標							
専門性の向上	ものづくりにおけるチャレンジを繰り返し行い、多角的に産業の発展・環境について考えること等により、幅広い知識や高度な技術を身に付け、地域産業をリードする生徒を育成する。	NO1 社会の変容に応じ、幅広い知識やICTをはじめ高度な技術を身に付け、自ら課題を発見し解決する創造力を備えた生徒を育成する。	教職員間のICT活用格差を解消し、持続可能で効果的な学習環境を構築する。 端末の保守管理と学習基盤の整備を徹底するとともに、実践例の共有を通じて教員の負担を抑え、全校で無理のない活用の平準化を図る。	職員アンケート「ICTを活用した授業展開や課題を取り入れた」と回答した教職員の割合				生徒アンケート「私は、タブレット等の学習環境を自ら活用し、学力の向上に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合		教務・情報部					
				4	85%以上	3	80%以上	4	80%以上	3	70%以上				
				2	75%以上	1	70%未満	2	60%以上	1	50%未満				
		No2 工業各科の専門性を踏まえ、多角的、主体的にものづくりにおけるチャレンジを繰り返し行うことができる生徒を育成する。	各工業科の専門性を踏まえ、実習や課題研究、ものづくりに関する競技大会への参加等を通して、生徒が主体的にものづくりに取り組む機会を確保する。その際、単に完成度を求めるだけでなく、課題設定から試行錯誤、改善に至る過程を重視した指導を行う。さらに学科横断的な協働学習を取り入れ、多角的な視点から課題解決に取り組む機会を設けることで、発想力・創造力の育成を図る。	職員アンケート「私は、授業などを通して生徒の発想力や創造力を伸ばすよう取り組んでいる」と回答した教職員の割合				生徒アンケート「私は、卒業までに身に付けるべき技能を理解し、卒業後のことを意識して過ごしている」と回答した生徒の割合		工業科					
				4	90%以上	3	80%以上	4	80%以上	3	70%以上				
				2	70%以上	1	70%未満	2	60%以上	1	60%未満				
		NO3 工業科各専門分野の技術と実務の進展を踏まえ、卒業後に求められる知識・技術・技能の実際を体験的に学び、持続的な産業の発展について多角的に継続して考え、地域産業をリードしていくことのできる生徒を育成する。	地域の産業界との連携を強化し、産業界のニーズや動向を把握し、企業見学やインターンシップ、業界人との交流などを通じて、生徒が体験的に学ぶ機会を提供する。チューター制度を活用し、キャリアカウンセリングや進路指導を通じて生徒一人一人の適性や興味を把握し、それに応じた進路選択の方向性を提案・支援する。	教職員アンケート26「市工は、チューター制度の活用により生徒を支援している。」と答えた教職員の割合				生徒アンケート20(予定)「私は将来の進路を意識して、将来のために学習や部活動、資格取得に意欲を持って粘り強く取り組んでいる(仮)」と答えた生徒の割合		進路指導部					
				4	90%以上	3	85%以上	4	80%以上	3	75%以上				
				2	80%以上	1	80%未満	2	70%以上	1	70%未満				
豊かな人間性の育成	生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、さまざまな学校教育活動を通して社会性や協調性を育み、他者を理解し、思いやりの心を大切にしながら協働して課題解決に努め、良好なコミュニケーションを図ることができる生徒を育成する。	NO4 生徒の主体性や自己有用感を培い地域貢献の意欲喚起に努めるとともに、他者を思いやり、周囲との良好なコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成する。	「学校をより良くする」「生徒の声を集める」「地域とつながる」の3本柱で生徒会執行部は活動していく。そのため、生徒が学校行事に主体的に取り組める環境を委員会を通して作っていく。 また、部・同好会の加入率を向上させるため、各部の「魅力の見える化」を進めていく。	教職員アンケート27「特別活動や部活動等を通じて、生徒の自主・自立の力を育て、魅力的な体育祭・市工祭に取り組んだ」と回答した教職員の割合				部・同好会への加入率		特活部					
				4	85%以上	3	75%以上	4	85%以上	3	75%以上				
				2	65%以上	1	65%未満	2	65%以上	1	65%未満				
		NO5 いじめを生まない、いじめを許さない支持的風土づくりを進めるとともに、規範意識と基本的生活習慣を身に付け、礼儀やマナーを大切にする生徒を育成する。	時間を管理することや身だしなみを整えることの意味を理解させるとともに校則や交通ルールなど当たり前前にできることの意識、レベルを高める。また、担任や学年と連携を図り、生徒の実態に応じた指導を行う。	教職員アンケート29「市工では、遅刻を減らすための取り組みが行われている。」と教職員アンケート30「市工は、挨拶や服装など、マナー指導に取り組んでいる。」と回答した教職員の割合				生徒アンケート28「私は、時間や校則などのルールを守り、学校生活に前向きに取り組んでいる。」と答えた生徒の割合		生徒指導部					
				4	85%以上	3	80%以上	4	85%以上	3	80%以上				
				2	75%以上	1	75%未満	2	75%以上	1	75%未満				
		NO6 生徒情報を共有する体制を整備し、生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境を整えるとともに、他者を思いやり周囲との良好なコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成する。	生徒・保護者だけでなく、HR担任や教科担当者、学習サポーター等との情報交換を密にすることで保健室・生徒支援室を「教育相談のハブ窓口」として機能させ、学校全体を包括した総合的なアセスメントに繋げる。また、保健室・生徒支援室が心身の健康に繋がる発信を行うと同時に、環境美化を生徒指導の一環と捉えて取り組みを強化することで、いじめやハラスメントのない安心・安全な学校づくりに貢献する。	教職員アンケート23「私は、セクハラ防止など人権を尊重する指導に取り組んでいる」と解答した教職員の割合				生徒アンケート33「いじめやセクハラ防止に取り組んでいる」と答えた生徒の割合		保健部					
				4	85%以上	3	80%以上	4	85%以上	3	80%以上				
				2	75%以上	1	75%未満	2	75%以上	1	75%未満				
		NO7 いじめを生まない、いじめを許さない支持的風土づくりを進めるとともに、他者を思いやり周囲との良好なコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成する。	「社会人への準備」を行う前段階として、挨拶や授業規律を守ることなどの「高校生活のルールとマナーの定着」を図る。また、各分掌との連携と情報共有を密にし、不本意な離学防止や、支援が必要な生徒への対応など個に応じた適切な指導を行う。	教職員アンケート21「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」と回答した教職員の割合				生徒アンケート22(仮)「私は、いじめ・セクハラのない環境づくりに取り組んでいる」と回答した生徒の割合		1学年					
						4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上	3	80%以上		
						2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1	70%未満		
				教職員アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」の満足度				生徒アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」の満足度		2学年					
						4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上	3	80%以上		
						2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1	70%未満		
		NO8 次代のニーズに応える学科改編に伴う特色ある教育内容の充実を図るとともに、工業科の特長を活かして地域課題を解決するなど、これらの学校の特色を積極的に地域と共有すること等を通して、地域とともにある学校づくりを進め、中学生・保護者・求人企業をはじめ学校関係者からの本校教育活動への理解と信頼を高める。	〇学年団・生徒指導部・保健部・各教科との連携を密にすることで生徒情報の共有をする。そして、協働的な取り組みによって、生徒の変化を素早く感じ取り、個々の適性に応じた対応と指導を行う。 〇授業規律を守り、学びを深め、基本的生活習慣を確立させていく。そして、自発的行動によって、成人としての規範意識や権意識をもち、社会で活躍するために必要な人間関係を築くことができる人物を育成する。	教職員アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」の満足度				生徒アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」の満足度		3学年					
						4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上	3	80%以上		
						2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1	70%未満		
オープンスクールに参加した中学生の人数				入学志願者数		広報部									
				4	500人以上	3	400人以上	4	1.1倍以上	3	1倍以上				
				2	300人以上	1	200人以上	2	0.9倍以上	1	0.8倍以上				
信頼される学校づくり	持続的に地域産業の活力を維持できるよう産業社会の変容に応じた工業教育の在り方を探究し、その実践を地域と共有することを通して将来の地域産業を担う生徒を育成する。	NO9 「第2期広島市の学校における働き方改革推進プラン」に基づく業務改善を推進するとともに、全教職員が年間月平均勤務時間外在校等時間の45時間以下を目標にする。	広島市教育センターや産業界等と連携した校内・校外研修へ年間10回以上の出席を推奨し、教員の専門的な指導力を向上させるとともに、学科改編に合わせた家庭学習を誘発する探究的授業を推進する。また、教育成果の積極的な共有・発信を通じて、保護者や地域からの信頼を確立する。	教職員アンケート06「私は、公開研究授業や授業交流週間、校内外の研修会等に7月までに3回、1月までに10回以上参加した。」の「4よくあてはまる」の割合				保護者アンケート06f「お子様の一日の家庭学習時間が、前年度より増加した。」の4と3の合計の割合		教育研究部					
						4	100%	3	90%	4	50%	3	45%		
						2	80%	1	70%	2	40%	1	35%		
		〇学校行事や校内での取り組みを発信し、「市工祭」におけるPTA活動の支援やものづくり体験を実施する企業などの支援をすることで、参加される地域の人々や保護者からの満足度を高める。 〇防災計画を策定し、年2回の防災訓練を実施することで、生徒および教職員の安全意識を高める。 〇奨学金案内および、学用品選定等外部組織との事務的支援を期限内に行う。	体育祭・市工祭の保護者の参加のべ人数				避難訓練時の点呼完了時間短縮		総務部						
					4	840人以上	3	840人以上735人未満	4	10%以上	3	10%未満7%以上			
					2	840人以上735人未満	1	630人未満	2	7%未満3%以上	1	3%未満			
		働きやすい学校	働き方改革の視点から教職員の業務の在り方の検討を進め、教職員の健康保持と生徒と向き合う時間の確保に努める。	NO9 「第2期広島市の学校における働き方改革推進プラン」に基づく業務改善を推進するとともに、全教職員が年間月平均勤務時間外在校等時間の45時間以下を目標にする。	教職員の業務負担感軽減のため、令和7年度に続き①教職員間および時期の平準化、②業務の重複解消による効率化を図る。主な方策として、企画運営会議等による学年・分掌各業務負担の見える化の研究や、部活動の顧問間の指導担当ローテーション、資格取得指導の補習等の重複解消等を進める。	教職員の1カ月あたりの年休取得時間数平均				年間月平均の勤務時間外在校等時間が45時間以下の教職員の割合		管理職			
								4	11時間以上	3	9時間以上	4	95%以上	3	90%以上
								2	7時間以上	1	7時間未満	2	85%以上	1	80%未満